

# 春愁

松本西夏

春愁の胸を過れるなにもなし  
春愁の空むらさきに暮れはじむ  
鳥渡るそこはかとなき春愁に  
ただぎまの雲湧き流る春昼に  
碧空に十日抱かれ桜散る  
街灯に吹雪くがごとく落花急  
空高く桜散りゆく手を振れば  
水に浮き生きつぐものに余寒なお

四月 尽雨に朱を増す土器の片  
カワセミの飛翔一閃息を止め  
カワセミの風切る音や眼裏に  
春一番二番三番星荒るる  
春一番万国の旗吹き振る  
春嵐置き場の自転車倒れ伏し  
露宇戦の罵詈雑言や春遠し  
木枯らしや邪推殺戮偽の旗  
立ち居して鳩春塵に吹かれおり  
緑陰の甕に夜来の雨満てり  
逝く春のニュースは今朝の震度強  
地を揺らす長き画面や春の朝